

# 2050年の「叡智」を考える

フロンティア分科会・「叡智のフロンティア」コメント資料



隠岐さや香  
 広島大学大学院 准教授  
 科学技術史・科学技術論

## 自己紹介

### 研究

- ✦ 科学技術の制度・政策史（特に18世紀のフランス科学アカデミー）
  - ✦ 著書：『科学アカデミーと有用な科学』（名古屋大学出版会、2011年）
  - ✦ 2011年サントリー学芸賞・パピルス賞受賞



### 社会に向けた活動

- ✦ 高等教育・研究問題、科学政策に関する発言・講演（任意団体アレゼール日本など）
- ✦ 日本学術会議特任連携会員（若手アカデミー委員会）

## 「叡智」とは？

- 【叡智】
  - 真理を洞察する精神能力（国文、9世紀～）
  - 直面する理論的実践的諸問題を効果的に処理する知能（哲学、intelligence）  
（『日本国語大辞典』小学館より）
- 私は高等教育・研究問題に関わっており、特に大学院卒人材の活用に関心が強いので、主にその観点から発言します
- 文化・芸術については上記の問題意識から連想出来る範囲で、個人の立場から発言します

## 現在の延長線上にある2050年の日本の叡智の姿

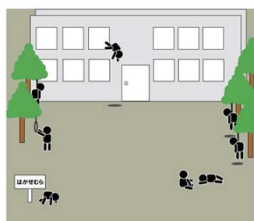
- 自然科学
  - 雇用の流動化により日本人若手研究者は減少するが、9月入学や一部授業英語化によりアジアからの留学生受け入れ増、一定の研究活動水準を維持
  - 大都市圏、上位大学への人材一極集中化（地方や中位校における研究活動の衰退）
  - 国際的な序列化された分業体制の強化と一極集中傾向の増大
- 人文・社会科学
  - 学術・研究活動の言語的植民地化（英語化）傾向
  - 日本語による人文社会科学研究活動の衰退（資金減・志望者減少）
- 文化・芸術
  - 創造性を評価し、投資できる制度の不備、弱体化
- 結果として考えられる社会への影響
  - **教育格差の拡大**と階層間での文化的差異の拡大傾向
  - **社会の不安定化**

## 根拠：従来型の科学技術政策が得意でない分野から推測

- ㊦ 人文社会科学的な視点の弱さ？
  - ㊦ 教育制度や産業に対する社会科学的な構造把握が不十分
    - ㊦ 例：ポストクーパー万人計画→若手研究者の就職難問題（文系・理系双方）
  - ㊦ モノを扱う分野を中心とした戦略
    - ㊦ グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーション、科学技術イノベーション...（第四期科学技術基本計画）
    - 全て重要であるに違いないが、自然環境、医療、テクノロジーで「新しいモノをつくる」発想が優位
- ㊦ 「フロンティアを創る」ことの困難？
  - ㊦ 外部（特に英語圏）の「オ」（=科学技術）を追いかけることを特に奨励する政策（←自発的な植民地科学として発展した日本の近代科学）
  - ㊦ 研究者の側は専門領域がタコソボ化して全体的視野を持ちづらい。やはり外部のトレンドに追随傾向。
  - ㊦ 独自の人材採用・養成課程と昇進システムから成る官僚機構と不安定な政権により、行政は自然科学・人文社会科学との連携が弱い（→グランドデザインが描きづらい）

## 参考例：ポストク問題

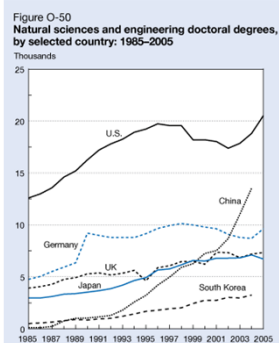
1990年代に産学連携振興政策をとり、大学発ベンチャーの増加と経済的成功をみる  
学位保持者も増加



「博士が100人いるむら」（作者不明）

日本もこれにならない、90年代以降、大学院の定員増、学位授与後に「ポストク研究者」として任期制の職

→社会の大半では終身雇用制度を指向  
→ギャップと就職難



特徴：

彼等の周りでは「チャレンジ精神を持て！」などの精神論が蔓延していた  
正確な統計調査不在のまま推測で暗い予感が先行した（→2010年に実態調査）

→社会科学の実装が不十分な社会

→ライフコースの多様性が想定されていない社会

## 目指すべき2050年の 日本の叡智の姿

多  
元  
的  
知  
性  
共  
生  
社  
会

1. **二つのグローバル化**を意識した学術政策の実現
2. **教育保証(Education security)**の完徹
3. **社会的排除**の問題に関する人文社会科学的視点を備えた社会

## 学術と二つのグローバル化

- 国際的な基準に基づく研究活動・交流
  - 英語圏主導の「グローバル」 →ナンバーワンをめざす（従来型）
  - 各文化圏単位の「グローバル」（※アジア文化圏など）
- **地域のための研究活動・交流**
  - 地域の問題解決とそのため国際連携（地域の環境問題、都市問題、教育問題、貧困問題など） →持続可能性
  - 世界に対する地域からの価値発信（芸術活動、東アジア史や郷土史の成果、日本のサブカルチャーとそれについての研究、etc） →オンリーワンの創出

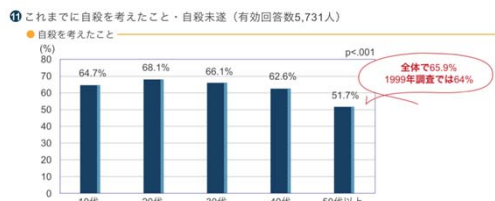
## 教育保証(Education security)の完徹

- 教育が、食物や身体の安全と同様に社会の中で尊厳を持って生きるために必要な資源として認識されている (→平和・幸福)
- 教育の無償化と義務教育の延長
  - 高校もしくは高校卒業相当の職業専門教育までが義務化されている
- 国と地方の役割再分配、内容の多様化
  - 国家は最低限のラインを設定しているが教育内容は地域に任せている
  - 国家は教育の地域格差是正や言語的少数者への配慮など (日本国籍者への多言語教育含む) 福祉的な側面において介入し、全体の質を保っている

## 社会的排除の問題に関する 人文社会科学的視点を備えた社会

- 各地域 (地方大学など) に社会的排除の問題を考える場所があり行政と連携できている
- 身体障がい者、精神障がい者、高齢者が尊厳を持って生きるための研究があり、医療や法の制度改革がなされている
- 多文化的背景を持つ者の国籍問題や性的少数者の尊厳の問題がクリアされている
- 社会的弱者に対し精神論ではない適切なアドバイスが自治体などの窓口で得られる

例：男性同性愛者の自殺念慮についてのグラフ (日高、2007)  
HIV対策の一環として調査されたもの。このような疾病を契機とせずとも、性的少数者など、社会的排除のリスクがある人々の生活の質について、取り組みが恒常的になされていくことが望ましい。



## いかなる領域（叡智のフロンティア）があるか

- 「**地域密着**」型研究、特に環境、都市、教育、貧困に関する問題解決型研究の領域
- 「**オンリーワン**」型研究（そこにしかないもの）の**発見**と奨励
  - 例：日本語による総合的な東アジア研究
- **社会的排除**（social exclusion）の問題についての総合理解と必要な措置の考案
  - 例：「生きづらさ」の**総合科学的**分析（経済格差、ジェンダー差、性的少数者、エスニックマイノリティ、高齢者など各主題ごとの考察も必要）
- 日本発文化の奨励・普及（伝統芸能から漫画、アニメーション、ゲームまで含む）
  - 例：サブカルチャーも包含した文化情報戦略、創作者の生活保障

## いかなる基本的原則（guiding principles）に立脚すべきか

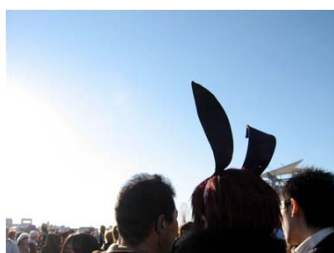
- 価値の創造
  - ナンバーワンだけではなく**オンリーワン**も作らねばならない。そして、**ランキングは外から与えられるものだけではなく、自分たちで発信するもの**でもある。
- 競争の適正規模維持
  - 科学技術史の事例を見る限り、**競争が生産性を持つためには一定の限度が必要である可能性が高い**。社会心理学、歴史学的な知見に基づく競争の設計が必要ではないか。
- 多様性への配慮
  - 社会的排除は多様性への配慮のなさから起こる。**経済格差、人種偏見、性差別、性指向差別、年齢差別の少ない社会**を作っていきたい。叡智はそのために発揮されねばならない。



## 現時点でしていく必要があると思われるもの

- 国家と民間の役割の再確認
  - 国家には50-100年単位、民間には5-10年単位の仕事を割り振る
- 学術、芸術が「報われない仕事」とみなされないようにする
  - 同一待遇同一賃金（特に大学）の実現と「男性稼ぎ手モデル」からの解放（→ 繁栄の部会、幸福の部会）
  - 研究者、芸術的な創作者（定義は難しいが）のためのミニマムな社会保障制度
- 産官学セクターの相互流動性を高める（特に学→産・官）
  - 情報公開
  - 公務員・教員採用制度改革
    - 人員の2, 3割は常に専門的な能力のある非資格保持者から構成されるようにする
  - 学セクターと民間企業との仲介事業の活性化
    - 特に大学院雇用についていえば人文社会科学系と外資系企業の仲介など（近年までほぼ無策だった）

皆様と議論していく中で新しい視点や具体的なアイデアを見いだしていければと思います。  
ご静聴ありがとうございました。



おまけ画像（ちょっと古い）：日本アニメ・漫画イベントの様子  
左）コミックマーケット69（2005年、東京ビッグサイト）  
右）manga show（2006年、パリ科学産業博物館）